

# ねりまの文化財

## 第16回 郷土芸能ねりま座 公演

ときめく共演

—ねりまの伝統祭囃子と里神楽—

「ねりま座」公演は、年に一度開催する練馬区の郷土芸能の祭典です。当日は、練馬区内で現在も活動している囃子連の中から4団体が出演し、各地域で受け継がれてきた囃子を披露します。また、毎年、区外の郷土芸能のゲスト出演もあります。今年には埼玉県新座市から、里神楽「石山裕雅社中」をお招きいたします。皆さまお誘いあわせのうえご来場ください。



里神楽「熱田神剣-宝剣盗人-」



獅子舞

入場無料！！  
獅子舞も出るよ！

練馬区  
地域文化部  
文化・生涯学習課  
伝統文化係  
〒176-8501  
練馬区豊玉北6-12-1  
TEL 03 (5984) 2442

- 日時 平成28年2月21日(日)  
午後1時～4時  
(午後0時30分開場)
- 会場 練馬区立生涯学習センター  
練馬区豊玉北6-8-1
- 出演 白山神社囃子連  
田柄囃子保存会  
南田中囃子保存会  
石神井町囃子連  
(区登録無形民俗文化財)
- 客演 武州里神楽  
十世家元「石山裕雅社中」  
(新座市指定無形民俗文化財)
- 主催 練馬区
- 協力 練馬区民俗芸能協議会
- 定員 300名(先着順)
- 申込 当日会場受付
- 問合せ 伝統文化係

速報!

おうぎやま

# 扇山遺跡第六次調査

扇山遺跡は、石神井台四丁目10番他に所在する遺跡で、石神井川左岸の台地縁辺部に位置します。川を約2km遡った対岸には、縄文時代の大規模な遺跡で、環状集落のある国指定史跡下野谷遺跡(西東京市)があります。

扇山遺跡は、昭和13・14年の調査で、縄文時代の住居跡が発見されました。当該地は、昭和53年から56年まで断続的に発掘調査が行われました。この第一次調査では、縄文時代中期の住居跡が31軒みつけられました。

第六次調査は、石神井台四丁目10番で、集合住宅建設に先立って実施しました(写真1)。第一次調査と同じ敷地



写真1 住居跡の発掘調査風景

の南側部分の二九二五㎡が調査対象でした。平成26年9月1日から平成27年4月17日まで、民間発掘会社が現地調査を行い、平成27年12月に報告書が刊行されました。

## 旧

石器時代(二万年以上前)の遺構では、立川ロームIII層、III〜IV層上面、IV層下面で石器集中部6箇所、礫群が5箇所みつかっています。石器集中部は、石器製作跡や石器の廃棄の跡と考えられます。礫群は、焼けた石が集中しており、石の中にはスズやタールが付着しているものもあり、調理に関わる遺構と考えられます。石器のなかには、写真2の長さ約5cmの黒曜石製の石核(石器の素材)や、ナイフ形石器、石槍などが出土しました。



写真2 黒曜石製の石核



写真3 縄文時代の竪穴住居跡(調査区西側)

## 遺

構は、縄文時代中期(約四千年五百年前)のものが多く、住居跡52軒、土坑(貯蔵穴他)などが出土しました。住居跡は、写真3のように何軒も重複してみつかっています。

3頁の図1は、縄文時代の住居跡の分布図です。円形の形は、縄文時代の住居跡や、貯蔵の穴などの土坑で、住居が狭い範囲に重なって建てられていました。調査区東側には、深い谷が入り、台地の縁辺部に集落が繰り返して建てられていたことがわかります。

住居跡は、竪穴住居跡で、壁、床面、炉跡(火を炊いた跡)、柱穴で構成されます。写真4は、4本の柱穴と中央に炉跡、床、壁、溝です。写真5は、中期中頃の住居跡です。一部壁が壊されていることから、柱穴が二つずつ並んでいること、家を建て替えた可能性があると考えられます。赤い矢印は、埋

甕炉です。写真6は炉に埋設されていた勝坂式土器です。胴部下半と底部が失われており、高さは22cmです。勝坂式土器とは、神奈川県相模原市の勝坂遺跡が基準となつて名前がつけられた、中期中頃の土器のことです。



写真4 縄文時代中期の竪穴住居跡

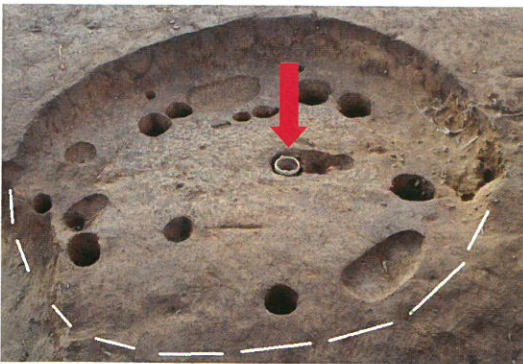


写真5 建て替えのある住居跡



写真8 称名寺式土器

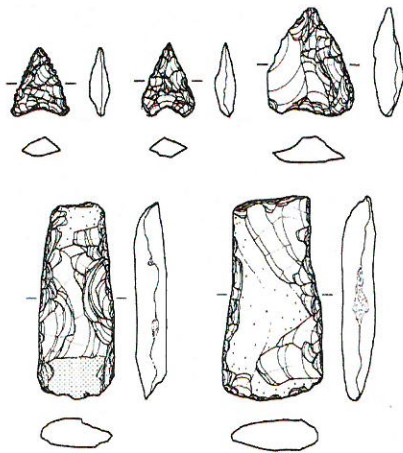


写真7 加曾利E式土器

写真7は、住居跡の窪地に廃棄してあった加曾利E式土器で、高さは31cm、器形は口縁部に丸い膨らみをもっています。加曾利E式土器は、千葉県千葉市の加曾利貝塚E地点が基準となった土器です。勝坂式土器と加曾利E式土器は、関東地方を中心に広く分布する土器です。

写真8は、後期初めの土器で、円形のモチーフなどに西日本の土器の影響がみられる称名寺式土器です。称名寺式土器は、神奈川県横浜市の称名寺貝塚が基準となっています。高さは13cmです。

この他、中期終わりの東北地方の影響をうけた土器も出土しました。縄文



上：石鏃 下：打製石斧

**扇** 山遺跡の出土遺物は、第一次調査から第六次調査までのコンテナで1000箱近くになりました。

時代中期終わりから後期初めにかけた東北地方や西日本の人々との交流があったことがわかります。

**遺** 物は、土器の他に石器があります。石鏃や打製石斧、磨石、石皿などが出土しました。石鏃は、弓矢の先端に用いられたもので、三角形の形状は左右対称です。打製石斧は、斧という名称ですが、石器のなかった時代には土掘り具としても使われたようです。磨石は、石皿とセットで木の実を磨り潰すなどの道具として使われました。

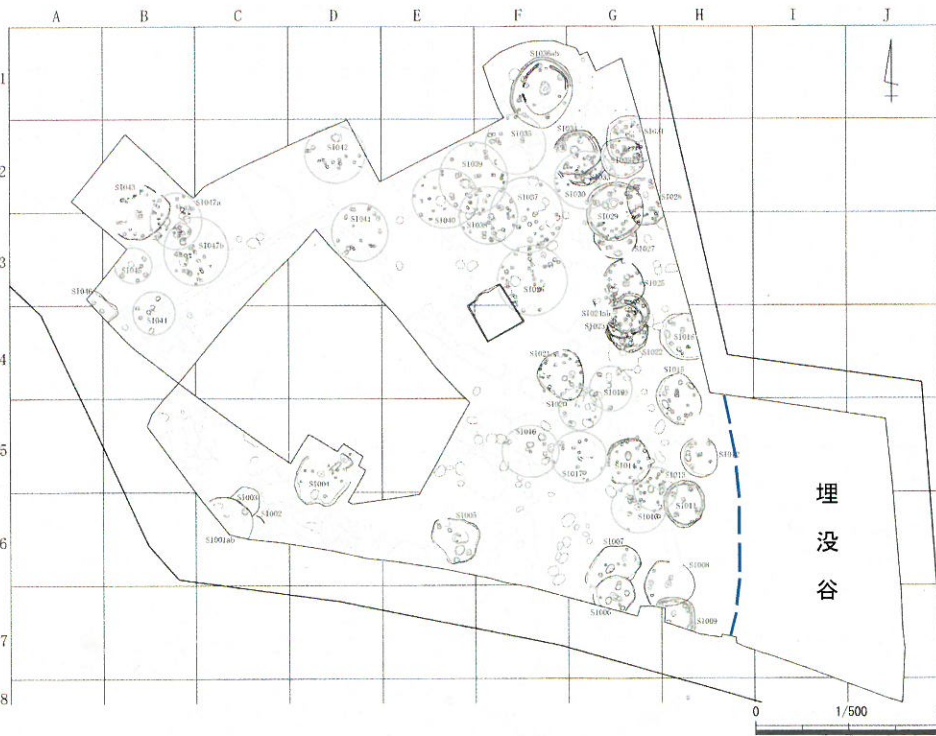


図1 第6次調査 縄文時代住居跡分布図

(株)パスコ編『東京都練馬区扇山遺跡第6次調査報告書』2015の図に一部加筆



写真6 炉に埋まっていた土器

# 文化財を火災から守ろう 1月26日は文化財防火デー

昭和24年(二九四九)1月26日、現存する世界最古の木造建築物である法隆寺金堂が炎上し、白鳳時代(7世紀半ば〜8世紀初め)の壁画が焼損しました。

この壁画の焼損は、国民に強い衝撃を与え、火災や災害による文化財保護の危機を深く憂慮する世論が高まり、翌昭和25年に文化財保護の総合的な法律として文化財保護法が制定されました。

その後、昭和29年11月3日に法隆寺金堂の修理事業が完了し、翌年には法隆寺金堂の焼損した日であること、また、1・2月が1年のうちで最も火災が発生しやすい時期であることを踏まえ、1月26日を「文化財防火デー」と定めました。

以来、毎年1月26日を中心に、各地で文化財防火運動を行っています。練馬区でも、区内の各消防署や、地域の防災組織による消防演習を行っています。どなたでも見学できますので、ぜひお越しください。

◆ 1月22日(金) 午前10時から  
浅間神社 北町2-41-2  
(光ヶ丘消防署)

◆ 1月26日(火) 午前10時から  
旧内田家住宅 石神井町5-13  
池淵史跡公園(石神井消防署)

【お問合せ】 伝統文化係



昨年の演習風景 左：教学院(大泉町) 右：としまえん

## 庚申塔の 三猿像

今年の干支は申(猿)です。区内に残る猿にちなんだ文化財はないかと探してみたと、庚申塔に彫られた三猿(見ざる・聞かざる・言わざる)の像を見つけました。

庚申塔とは、60日に一度巡ってくる庚申の日の夜に飲食等をともしして夜を明かす習俗・行事(庚申待)を行う庚申講の人々が、長年にわたる庚申信仰を記念し建てた石塔です。

区内各所でも、かつて多くの庚申講が結ばれ、庚申塔が130基ほど残っています。そのうち98基に三猿像が彫られています。庚申塔の形は駒型や笠付角柱型など様々ありますが、三猿像の多くは、中央に彫られた青面金剛立像の下のほうに彫られています。

申年の今年、庚申塔の三猿に注目してみたいかがでしょうか。



春日町3-2 庚申塔



向山1-3 庚申塔



桜台5-39 庚申塔

## 文化財保護推進員を 募集します

練馬区文化財保護推進員制度は、練馬区文化財保護条例に基づき、昭和63年に設置されました。12名の方を委嘱しており、任期は2年です。

【活動内容】①区内を12に分けた担当地域を巡回し、文化財の現状確認や文化財保護の普及・啓発活動を行う。

②伝統文化係が実施するさまざまな文化財関係事業に協力し、文化財保護を区民に伝える。③これらの活動の内容や結果を、年に3回開催される推進員連絡会で伝統文化係に報告する。

【任期】平成28年4月1日〜

30年3月31日

【募集する担当地域】

- (1) 北町・田柄・光が丘・旭町の地域
- (2) 立野町・関町南・関町北の地域

【謝礼】月額五千元

【募集資格と人員】

区内在住・在勤の方2名(選考) 【申込み】文化財の保護と活用についての考え(600字以内、様式自由)、および①住所②氏名(ふりがな)③年齢④電話番号⑤略歴⑥文化財関連の活動実績を記入のうえ、1月25日(月)(必着)

【提出先】伝統文化係 (区役所本庁舎11階)

練馬区豊玉北6-12-1